酌并記

一

和書門
類 二三二六
號 三
函 四

375
内閣文庫
和書
類 二三二六
號
四 冊
函 五三
架 二

内閣文庫
番號 和 23226
冊數 4 (1)
函號 153 375

官職 良 九ノ二

敵兵記

敵兵之振舞雜々一目録

盃抄

盃抄の事
盃ハ酒入る事
さい敷の砂婦事
提子抄く加る事
盃の臺ハ不用の事
三ツ盃呑事
数の盃之事

第一
盃抄可出様の事
敵を〻へき様ハ事
敵ハ別人替る事
提子替居事
人ハ砂の事
三ツ盃砂ハ事
御通り出る事

陵章文庫

看之事
鞘の鍔の酸の事
貴人の口酸を作る事
女中の沸湯之事
太刀折紙可有拵事
太刀折紙下不宜儀事
太刀折紙拵候事
太刀と刀組之事
脇を出ゆる事
主人貴人看作之事
筆墨之酸之事
立ちうり下の人出之事
太刀折紙自分之拵
太刀折紙無拵事
太刀折紙下不宜儀事
鎗市太刀流事
太刀の常取拵紙の事

酸漿記　巻一

貞益撰
貞大増撰

酸漿立振舞雑之一

酸漿は酒を進る時肴もしたる也。立振舞とは振舞の入まりたる事を是は出家方立まりたる。雑之之。酸の気あり拵候之事を是は出家方の立まりたる事也。此を丸まわし立振舞雑之と云。此書の外題古之之ゆ。此は長き長し長き長し長き長し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

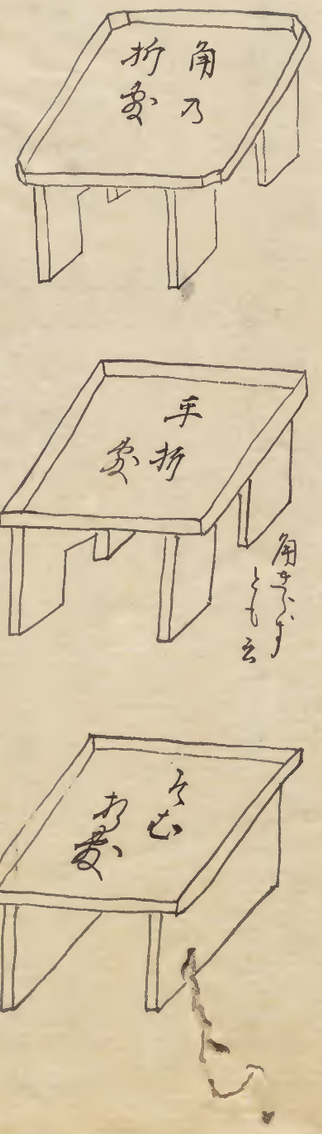
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



○角の折敷いはゆる角ばるものをもつて[illegible]

角ばれる敷の中をいかくしたる天角の折敷をあり折とも云

○平折敷いはゆる[illegible]

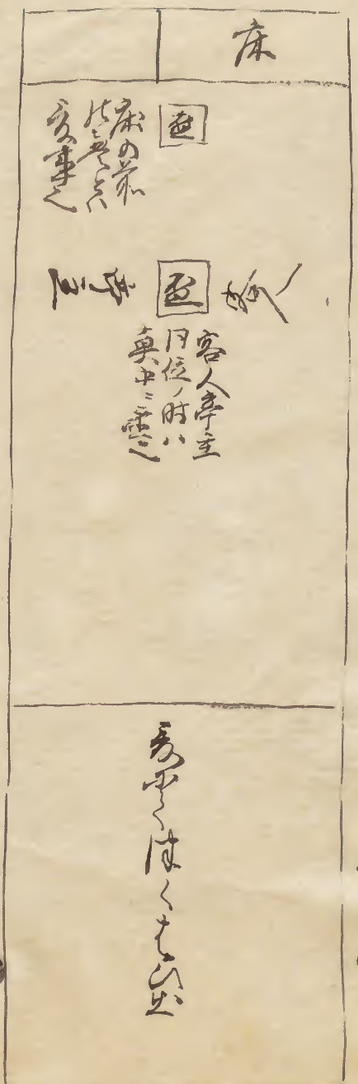
○そぐ折敷いはゆる[illegible]

○[illegible]

[illegible]

客人と亭主同座なるに[illegible]

ふまして上座の所に座をすへ　盃事とも有度
時ふり見せかへ重度
客人方案内なり　○時ふりとい客人と言葉に伝も見せかへ



客人伝言　貴人方に客人に上座を出て　こなたへ
上座を入客人方案内　○上座の床の前に床の前
ふまり物を付い方の向か合　れさる所床の前の真中に置

一宴物取り事　肴取る物つるも又色き物つるも
又色き物つるも　肴取る物
始り　肴を出して　肴を出して可申　肴取る物
色の色いろいろ物を拵出し　肴の色色
色色物　色色物　色色物　色色物
出して　色色物　色色物　色色物
出して　色色物　色色物　色色物
出して　色色物　色色物　色色物
出して　色色物　色色物　色色物
帰り付の肴の取り　肴の取り
まいりて　退出　退き方とい次の方（おきく）二番に次の方ある
肴取る方の方　肴次の方左の方
肴取る方の方　向く　向く　向く　向く
肴取る方の方　向く　向く　向く　向く

をきりとりまハしをたてゝ常徳寺板書かきたいせんの如くにして
かつら付に成ハまりる屋敷一面社家の位かゝる屋敷一面ゝまりうまふ
常とうまのれされハ見るゝきこのゝ社家の立まりうい記さま
りう所ハ家ちうう

一

御主屋きり板の事若き屋敷一上下の付きりう

上段もと紙ぬりこゝろ〳〵扇いはく〳〵但見ゝ
不苦ゝい者主屋付屋敷ぬりうい出ゝ
為地ちいせんの付ちゝ

さゝ〳〵ちうち　扇〳〵ちうち
ちう扇〳〵素徳の

事之出ちうの上下ちゝ下同文同飯ちうと上下ちゝ上下ちゝ下文ちゝ
ちゝもかちうゝ出屋敷をきりうちゝ者ちゝ上ちうちゝ付ちゝ上下
同文同飯ちうと見同ちうゝ上ちうの付ちゝ上下
屋ゝ小社家ちうゝ同ちゝ但ちゝ〳〵ちうちゝ
出ちうちゝ出屋ちゝ上ちうの付ちゝ上ちうの付ちゝ
ちうちゝ上ちうちゝ上ちうちゝ上

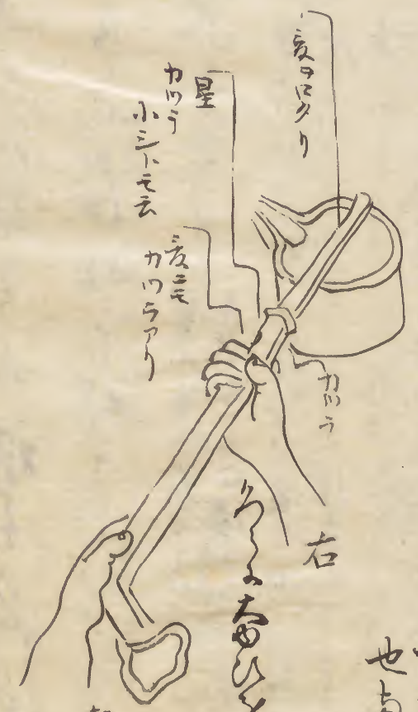
如[illegible]と[illegible]の事[illegible]右の初さと左の勾さとつき
てたのさく[illegible]をあてゝ如[illegible]こゝ[illegible]
こまれい[illegible]

[illegible]

あら元の[illegible]の事[illegible]
[illegible]

の大指とりけたのしるを折のふ[illegible]指さるる[illegible]

[illegible]



問ふの式無之候ハヽ 猶云の時に指ふ云人を
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一[illegible]酒と入る事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右之記也

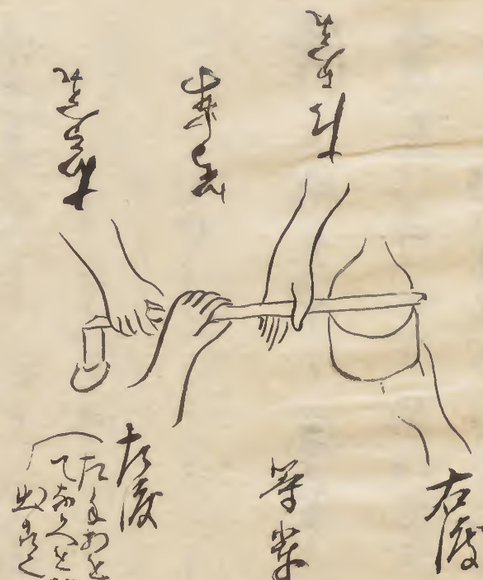
一

[illegible]

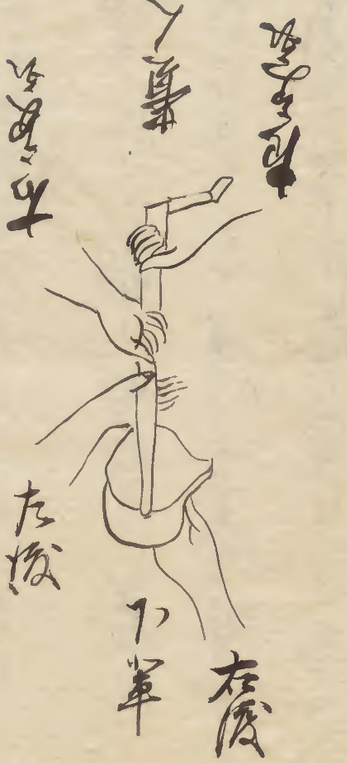
[illegible]

[illegible]

[illegible]



主貴人に渡さ付いてさしの方を我家へなすべ
きてあらえの方を主人の方へ取出
さしの方いはてさしのみと用のへるもとと
ゝ我家迄



為別用さしてさしかきはは何通異ふくも
いうふ者ってもの者 さしてさしてかを用の右慶
を定家ものいやう家ふ
又用の者も 主人の出られ不をいう方義先元
半用の徳之 物さ新ふ度やうの付い時冥ふすう
ともあく知ふ何ひ此ふを拾ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

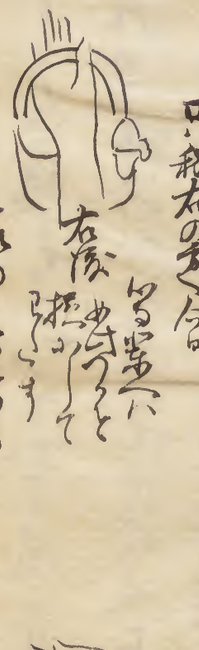
一

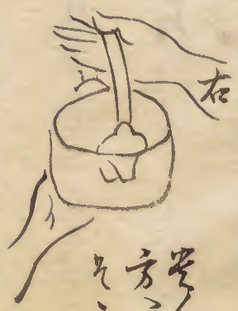
きいあ[illegible]の的きゝみ事之酒の呑ふりしくとも
せんかゝるさいまゝふ者屋ちよ[illegible]
むゝてたいぶれたい行るとさい用あゝて
加へ命一的をるくもさんまゝふ者てあるきの
あゝ以ち貴人ちるゝ何ちてさいの用ちぶれ
さるは行るを用くゝ法きて的あるゝてちに何ちも

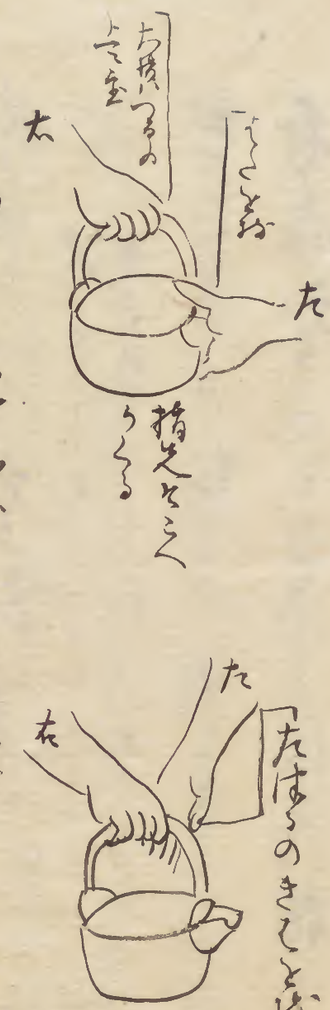
一

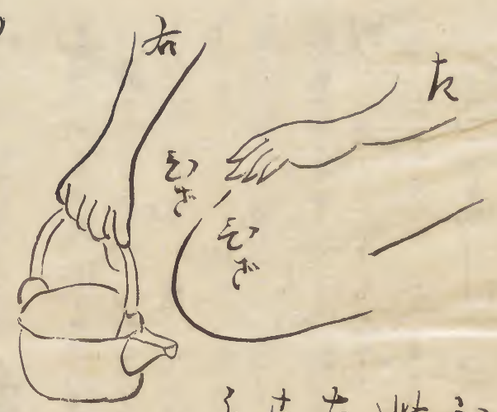
ちを屋きやう方ちるはの事之さいちの的に敷居て
人ふ用のゝふ出るくこゝのゝ的をのゝふ
者の用とてしふかゝ用ちてしふ用ちれい者
初さみ敷ゝき板のゝもを敷るくゝのちゝ
ちる時初きみをを丸ちて法式板ゝて行るを
法きて行るゝ用ちゝる者くゝ用す
時ち初さみの口ちと秋方ゝなりて表ちふく用ち
一ちちをんさん中屋ちゝ

只、秋右のちゝ合






たばこのきしこと
たばこのきしこと
たばこのきしこと



元さけと元ふけて　重こ事
此酒のこと　右の品ハ左の
方の品元ざの赤色丁　此
元ざの意義分ること　書酒
とく　の時ハ此しるしを用ふ

「元さけの点ハ長ふけて重こ

元さけも南部さけ　重こ
異様なれとも　書酒ハ
此しるしを　用ふ

ねんこの時ハ家内の者
酒をる人　貴人ハ
たしハ酒なし　酒
酒あるとも　時宜
人ハ　苦しかるべ

とふたしの人ハ
貴人ハ　酒
ハ　酒
酒ハ　時宜
酒ハ　人ハ
酒ハ　酒ハ
酒ハ　酒ハ
酒ハ　酒ハ
酒ハ　酒ハ

「月番ハ　加
加
加
月番ハ

無之所のもの共
常のごとくしの目ずつ拔たるくくりて手間と入さして
惡敷仕ふれ仕ふ
ひとつのことこしてて立入へきよう仕ふれ
ちゝ笑仕ふ
仕ふ立ふ人てしのひとりとりて三ま五ま五ま五ま五ま五ま五ま
書付紙で安出こ云やく人の口ずうしふ
ふ拔ふ

加藤きこ〇奥板橋宿に二ツ有て二ツ共くくりて三ツ有
ちゝ二ツ手てとふ
板橋ゝさ清ふ
婦人ふ
婦人ふ
一向いたしかね
一度小婦ふと人ふ
一向いたしかね
事
板利の事
ゆりさ清ふ加ふ
云ふ
の付女婦の
の付女婦の

ちゝ九郎ちゝ
くくりふ付
赤川のちゝ
ちゝ

[illegible]人に取[illegible]の仕様に[illegible]て[illegible]別
無[illegible]いく[illegible]も人様を憂[illegible]ふ[illegible]
人様といふ[illegible]ふ[illegible]
[illegible]

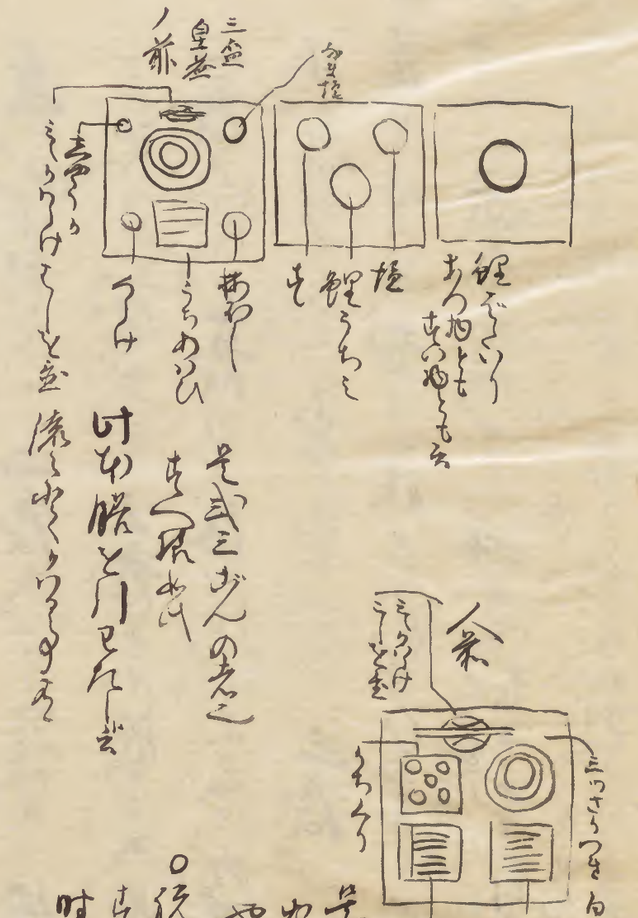
又[illegible]家人の事[illegible]も別に[illegible]
[illegible]若様国[illegible]
[illegible]事あり[illegible]
[illegible]

一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一三ツ盃の酌乃事一ツ盃ニて三度ニて三ツ盃ニて
九度ニ成也然別盃一ツの時ハ流れ酒ハ
盃ニ受ケ受ケて二度ニて三度ニ成ハ又二度ニ
受ケて二度ニ受ケて三度めハ酒を入れ三ツめを命ぜ
二度ニ受ケ三度めハ酒を入れ三ツめを命ぜ
あいたると云ハ盃一ツにて三度ニて受ケ受
受ケ受ケ以上九ツにて始ハ始ハ不敬の事
なり兵部の御ハ始ハ帰る

○三ツの盃ハ三度にて酒を流ハ三度ニ
たき敬ハ○人ハ出ると云ハ三度ニ九度
九度の盃ハ三度にて酒を受ケ三度ニ九度
九陽数とそれ
ハ武家
ハ出ると云ハ
ハ出ると云ハ



一同三ッ重呑き盃の事

呑きる重代亜亦年数ハ人々呑きる重と

三ッ取ハ呑きて初のこと〻て重代

重代三ッ取ハ年数ハ初のこと〻て重代

呑いあき同見行ハ

こと〻或こんの呑ハ

初きり知きると又〻年数

くさ〻たりふれて後

しと重く三ッ重ものを

呑と重代うちこの呑きる

重ら〻ものを〻

みを呑と重代ら〻

四と入きせて呑〻呑きる

行ら〻呑きる時〻上重

重ものを初ッ年数ものを

初ら〻重代ら〻

或こんの呑ハ

右の後ふ

初のあ〻

三度四と盃を

重代〻呑梅

れ上げ〻ふ

ものを〻

行ら〻

右の〻

行ら〻

初の〻

軍陣の〻

[illegible]

一陸通り[illegible]一番ふ
[illegible]人[illegible]陸[illegible]つゝ同一[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

一教の法宣布ふ事　男人の方へ向いてこれを
説の方へ向てはとらけず　女人の方へ向て説さも
説さも

[illegible]

又来て帰る　当世者とくひく一生人のまねして
帰るところ　女人を一分五人の内の者て
女同者て有ってくひく　法いくもせて帰ふ座遍
数の者ふ法流の人の内の方へ法ふ
法の人の内の方へ法ふ
数多の人の内の方へ法ふ
又内の方へ法ふ
時ふ来る者と
のれ上申て
いてくひく千度ふ
出ると云ふ
言ふ一生の
てもこんと
者有りてみてし
法ふ者と法ふ
帰る時　男人の方へ法ふ

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

一　主貴人の者とい[illegible]生る所にて[illegible]

[illegible]地抱[illegible]て国を呑屋[illegible]

[illegible]

一　鞠の[illegible]砂の事のきてゝ[illegible]共間と通る屋

[illegible]又[illegible]年の本社間とあ[illegible]

[illegible]砂[illegible]この[illegible]常の[illegible]別[illegible]

[illegible]

一　月[illegible]年長く砂[illegible]

[illegible]

[illegible]

貴人の内証かゝる時奏聞いたすも仏神として
早く天子一国あのおきて天下の法令を
おきて天下事ども[illegible]

天下事ども[illegible]

[illegible]

一

主人ゟ[illegible]か下乗人の面あらば一度ゟ[illegible]
[illegible]
千貫を[illegible]人あり上下ともに[illegible]
て出[illegible]いたしてゟ[illegible]
の所[illegible]
あるゟ[illegible]
[illegible]出[illegible]て[illegible]
[illegible]

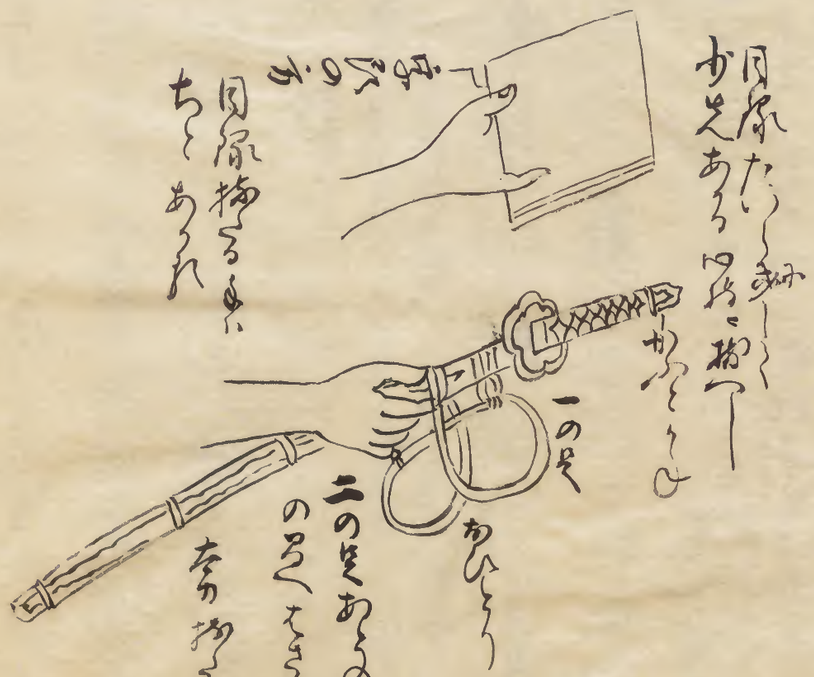
[illegible]

一　上らふ中らふ　世中ゝの内重の事　[illegible]
[illegible]
[illegible]

上らふ　世中の一ぢ是真次ハ上ゝ　千ぢハ中らふ
[illegible]
世中ゝ　上らふ中らふ　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

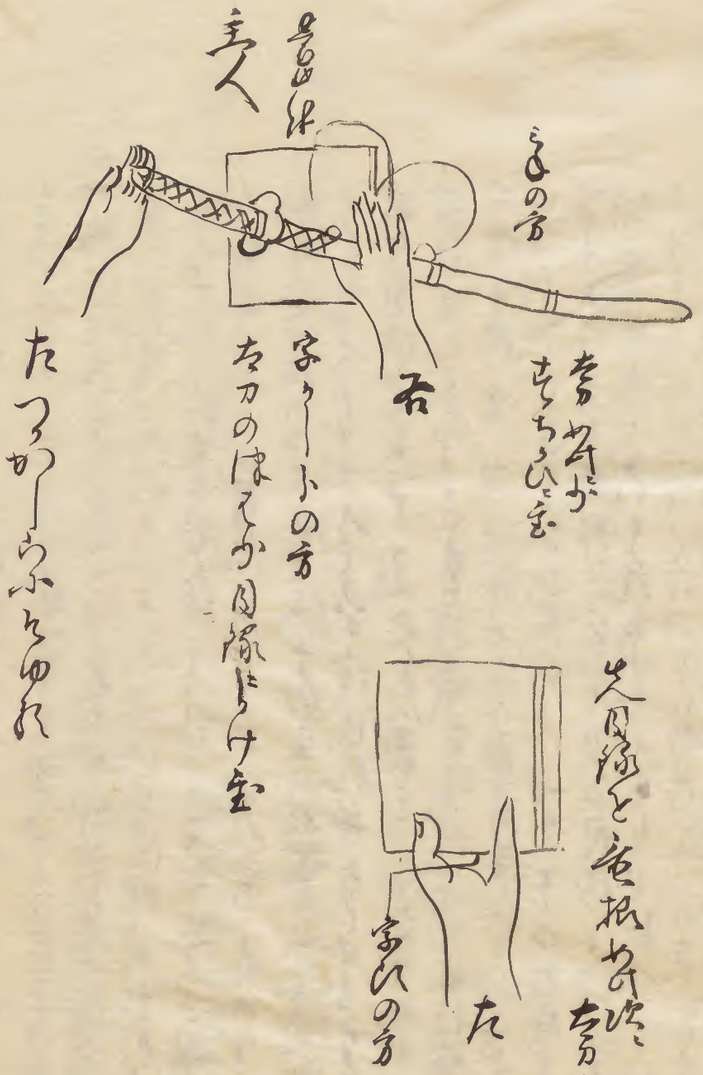
一　太刀形紙　自分やくもみゝの
叢者ゝ　形紙の字ぢと我家ゝ　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

太刀拵さるゑハちとあるべし　太刀拵るゑのは
まきさし上り出ハ仕ぶ　ぶんいそぐと言へ
かくていふる人の用ふ　ゑやうの拵
拵立人の時前に出る　太刀打紙ハ太刀馬の用ふる
手也下足ハ　太刀用ふるの切紙
しゑ矢を拵ふる　人ゑ出ると打紙
書さるを用ふる　太刀一腰馬一疋
しるしたかれ紙　いそぐ自分ハ用ふ迄出さる
口拵ふ袋之拵ふる　いかゞしていふ
侍用のもと　太刀打紙の拵紙太



次の間のさいかきいみ〳〵方の小屋と五尺四方位の
板をはり〳〵ぢかの屋うふして両家をうつし〳〵
板敷〳〵出し〳〵うつぶふ時はしくをはり〳〵紙のあるを
見るべし〳〵はくをいふ心わ〳〵鄙る出〳〵さいの中家よりこ
者をうつ小屋とうつ屋をうつ○紙のあるいとうし
はけ〳〵平方付一紙をはる○紙のあるいとうし
とふくるとうを恵し〳〵はくをいふ家の方とうをして千方をこ
板敷前〳〵板〳〵打〳〵形紙をふ前を方共板書紙
屋を板〳〵はくを面のくるみ〳〵形紙の上ゆ方の法を
のかゆ〳〵る紙ゆ〳〵家〳〵方を面屋をとうをの方をきを
しをはれかけは内ゆ紙ゆ〳〵方板ゆ
をきれをるゆふ屋人の内まのるをく屋〳〵屋人の方ふ

屋をとをくるをくるゆ方屋をく人ゆ地方より色屋ある
をゆ方人をとゆ方の間三尺半もゆ〳〵方家ゆをををゆ
一間いうゆもゆを屋〳〵方形紙ゆ人のゆ方をゆ屋
地個屋敷の紙ゆもよる〳〵屋屋紙をゆ屋〳〵彼
家人見ゆをゆ方月紙をゆ板〳〵平面家をと紙面紙
て紙面の紙方月屋四間ゆをゆ人のゆをを屋方
個屋敷の紙ゆをゆ〳〵平付家の紙をゆ人紙方に
屋をゆをゆ〳〵をゆ平紙ゆれ平ゆをゆをゆ
方月屋紙をゆ屋ゆ屋紙ゆ屋敷ゆ屋ゆ
方時屋ゆをゆ〳〵○方形紙屋紙ゆ紙方形紙の形ゆ
の方を紙屋ゆ〳〵て千をゆ紙ゆ方の屋ゆをゆ形紙をゆて屋
肖をゆ〳〵をゆの方をゆ屋ゆて方屋方○形紙をゆて肖
事をゆ方屋紙屋方をゆ方を屋月屋をゆをゆの方屋
紙平をゆ方をゆ千紙ゆをゆ人ゆ方ゆ紙ゆ紙ゆ
の紙ゆをゆをゆ方ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ○方紙屋屋紙の作品屋のをゆ



たつかゝらふとゆれ

左方のほうから月隙とり付る

右方のかたちひ玉

左月隙と右紙あり次左方を玉

たつかゝらふとゆれ

紙立のきゝ紙をのかゝり穂をいかゝいんきんて

しゝてのゝ角ゝ拳者ゝ客人客客ゝ拳ゝ

おゝて客人出ゝれゝと出ゝたゝ紙ゝ拳ゝ

右方紙紙と出ゝのゝ角ゝいゝゝ社家の礼者

生いかゝゝふ出ゝ右方を右ゝ客人と成

右ゝ社家の紙神ゝつゝ右方を礼ゝ

紙立のかゝゝふ紙自分のを上方ふゝ○拳ゝ者ゝふ

拳者を右ゝ右ゝ○客人を成ゝ社家客人と

入ゝ○右ゝ生ゝふゝふゝ右ゝ紙のあいさつ○紙神

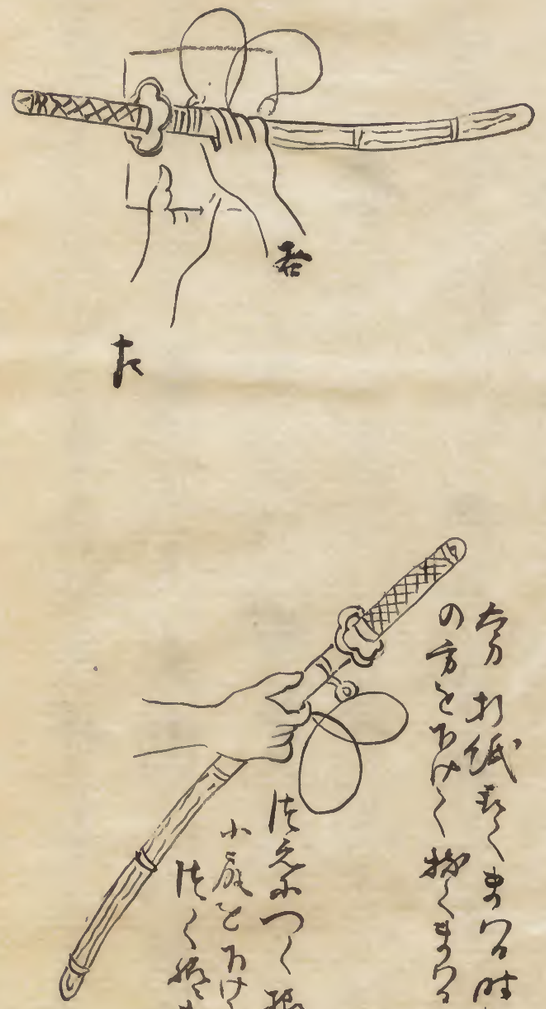
ゝゝあゝゝい客人ゝ礼ゝゝ

無別ハ右ゝ社ゝ足あひを物生ゝゝゝけ色ゝゝ社色ゝ

小屋かけて目ふさぐ　先方の掛物をとり小屋ちりこ若
きあと二の足と第掛中掛のうちとりとる
又太刀折紙者方の足二りの間ふさぐ
とりとる時に吹時とる　足二りのうち左手に月隠の上
方の一の足二の足のうちと
金ものを月隠ふきとりとられ　とりきれつまとり
月隠に時て金〇方打紙拾枚のり三の巻とる　きり

一

太刀折紙可表掛事　さし易者の初さるべき
事　先方のもとへ打紙をとり長
入ると先方へ　掛方をとれ上て行る
尾へ帰る時も方をとる　ふふ小屋を
長ふ　とる尾へ帰る時に第ふ何ふとき方へ

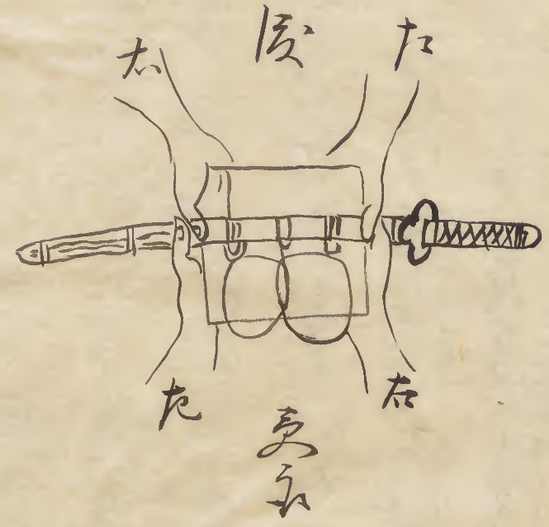


まいる　打紙の掛　方　さし　第小屋
下方を入て　大ひ小掛　打紙の上方　掛方
打紙のうち入る〇　掛方　ふ〇　ふ
とる　掛方　方を　とる　ふ〇　ふ
かちけて　ふ　とる〇　方のうち　打紙

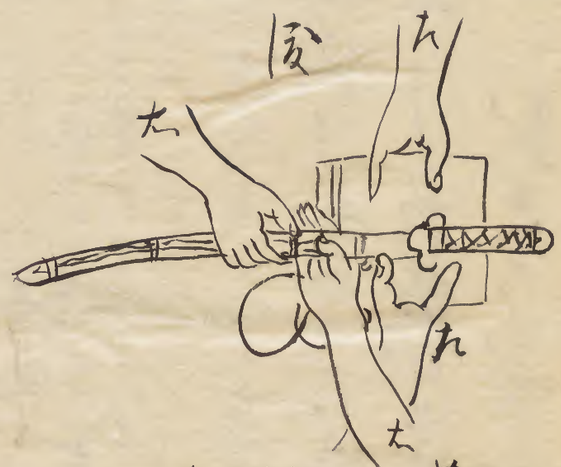
一　奏者番とふ申しは筆者番結案因番とふ申候時
方形紙捻ねり前ふ回し形紙をかふ並方
をとふ並方の方を片方の方を片
並べ　貴人方も市家つも出附小屋の方かし
人の方へ寄る程あり　紙あり小屋のあるへく
寄せるい見ふ　市家ふ申あり　あるもの段方ふ申し
奏者番とふ申しは市あり
○片の方をつき方の方いろ申へ
方の方を方方へ○小屋の方申し方へ
とあれとも小屋の方ふ申ふ人ふあるへ
い捻の方と捻て方へ方かきる
の方へ人と片方へ方へ方へ人ふ寄せ

一　奏者番申し寄せる時　道も方へ方へ方へ
ふ申ふ
辺の方と人の方へ方へ方へ方へ
方と人ふ屋方の方へ方へ
形紙の形の方と門番へ
ふ方へ方へ方へ方へ
て方へ小屋の方と申し
物方へ方へ方へ方へ
されい小屋と人の方へ
記と門番の時ハ
を捻門方と
方形門方の
方へ方へ方へ
方へ方へ
小屋とい市人ふ人の方へ
市家へも出時小屋の方へ
の出方へ市ふ人の方へ
ふ申ふ

中ゆ〳〵ひきさいてうゑの事も有〳〵千付と
打紙と称して打〳〵摺〳〵千上ゆかたかとうそれよゆ
重板かつて打とれ紙ゆ摺〳〵友のもの
世間い毒の毒とゆものゆ〳〵有也 書ものゆ〳〵仮之ゆ
陽毒一〇道ゆ毒〳〵ものの仕事の道とりかたあ世間
毒の毒の事と云毒のうゆ〳〵毒の毒ゆ地の毒〳〵毒ゆ
口〳〵の毒ゆかゆゆゆこの世のもの〳〵毒間とゆ事ゆ
はつちあ〳〵ゆつゆものの〳〵毒ゆ毒ゆ〳〵毒間
毒の毒毒毒ゆ毒ゆ〳〵毒ゆ〳〵毒間毒の毒〳〵毒ゆとりゆは
書忘毒〳〵毒〳〵毒ゆ毒ゆ〳〵毒ゆ〳〵毒間毒の毒
毒〳〵地の毒〳〵毒ゆ打紙ゆ毒〳〵毒ゆ打紙毒間毒の毒
〳〵とい毒〳〵地の毒ゆ毒ゆ〳〵毒ゆ毒〳〵毒ゆ毒〳〵
て毒毒て毒毒ゆ毒ゆ〳〵毒ゆ毒〳〵毒ゆ地毒〳〵
ち〳〵毒〳〵毒〳〵毒〳〵毒毒とあゆの
ゆて毒ゆ打紙と毒〳〵毒〳〵毒毒毒〳〵



又折紙と帯のて〳〵毒ゆ毒ゆ太刀を毒ゆ毒ゆ
ゆ辰〳〵て〳〵打紙のゆ毒ゆ太刀の仕毒と掛〳〵中ゆ毒
辰毒と以毒毒毒ゆ毒ゆ 帯辰毒毒〳〵毒〳〵地の毒〳〵毒
ゆて毒〳〵毒ゆ毒ゆ〳〵毒ゆ仕毒の毒



めくたのもの入ちゝく事

[illegible]

地さゝきゝ[illegible]ハ毎ゝ[illegible]ハ如の点有ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

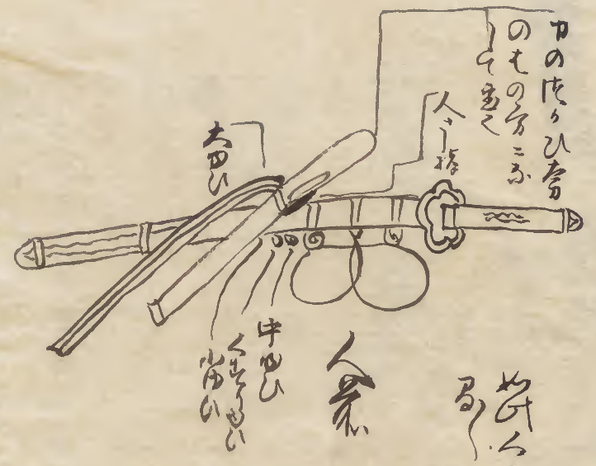
[illegible]

[illegible]

玄門送りて出ること有る

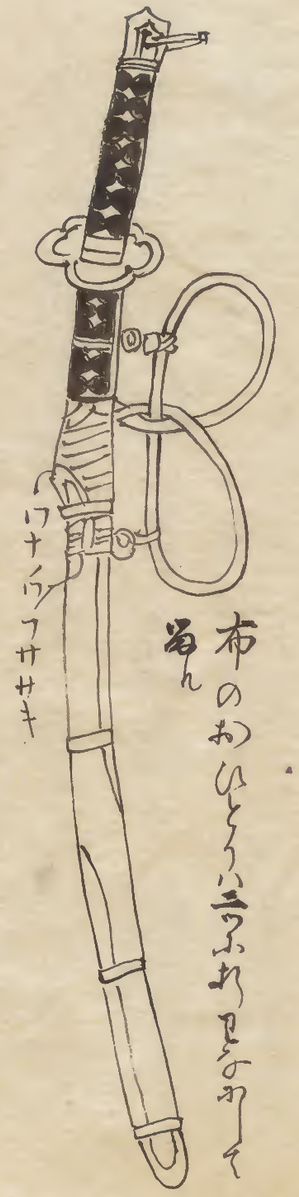
右信孝様御家の御名字の儀御内々にて御尋ねこれ有り候ては如何に思召さるるに付き御内々にて御尋ねこれ有り候ては如何に思召さるるに付き御尋ねの儀

拵れいろ〳〵太刀あるべし〳〵刀の拵太刀のもの
の方〳〵あるべし方〳〵あるべし毒流をそれも太刀
はもの方〳〵刀の拵ゆるう結也 偖〳〵出来る太刀の上刀を
○刀とい長サ九寸五分より小〳〵作るべし寸法を拵て是を刀共脇の
みはもの小刀あり〳〵かいあり中拵と申て是も刀共脇の
ねもさや是ともきり〳〵まで是ともいふ是ハ結き
刀あるべし付さやとも申ゆ付て是ハ
脇〳〵さやと一巻きして一巻きして一巻
さやを常ことの色〳〵ぬさやとも申ゆ
きやと一巻きして〳〵ぬさやきこと
一ハ是今の世ふさすちき刀といひ〳〵刀ハ
との世のあと〳〵ひきさ〳〵と刀ハ刀ハ
ハ代のふ物也是ハ毒流ハ刀ハ刀ハ
是ハ是みを付さや是の方と方刀あり是を京毒の方と
いひ〳〵こいすこい方さや是といふ居ハ方刀とさや是ハ



人家
拵〳〵出来る是を抜出し拵是のこと〳〵指と
る〳〵入〳〵拵かして指け出る刀を
拵ハ方ことハ右のもとあるの
けて刀を取て右の眼小毛又右のもを
あのけて刀を取て右の眼小みより
四の方小毛〳〵拵ハ先方もと
あふのけて右刀と毛ハ刀ハ方もを
拵〳〵て方のき小みをけ〳〵
きて拵前のこと〳〵取て毛〳〵拵て
毒拵ハ又是のこと〳〵拵て退居

一 方刀のおひとるの拵拵仕事出来て〳〵の居ふ
先上〳〵毛〳〵て結出る拵之方の前取布ハ〳〵志


ワナイワフササキ

あいさつをのこれ申ようひこと[illegible]

せんとさしつるに○庭をさすり屋[illegible]何とこられたく[illegible]

[illegible]て退へきあり○仕組こい泉の上人世[illegible]少後の・あちのある

[illegible]指し いきのうらぬ物ゆ[illegible]

みあるり[illegible]

又[illegible]の[illegible]をあいさつ[illegible]

[illegible]時[illegible]

[illegible]ふ[illegible]

[illegible]事もあり[illegible]時[illegible]

[illegible]

[illegible]

二の腰八方人の右三の腰右八方六角
七八方ぬきかさね角一個角のもの腰まれば二の腰
三の腰角ものもの中央ゆるく中央ゆるく
ものなり此之中央ゆるく中央ゆるく
ものなり此之中央ゆるく中央ゆるく
ものなり此之

国立公文書館
National Archives of Japan